

朝食会講話シリーズ
vol. 324

企業と人が“生きづく街”を目指して
- 尼崎商工会議所創立 100周年と「ECO未来都市宣言」 -



尼崎商工会議所 会頭

吉田 修



尼崎商工会議所 会頭
音羽電機工業株式会社 代表取締役社長
吉田 修 (よしだ おさむ)氏

略 歴

昭和 17年 10月 大阪府豊中市で生まれる。
昭和 40年 3月 甲南大学 卒業
昭和 59年 音羽電機工業株式会社 入社、取締役役に就任
平成 7年 ~ 音羽電機工業株式会社 取締役社長に就任
平成 13年 11月 ~ 尼崎商工会議所 議員
平成 15年 6月 ~ 尼崎商工会議所 常議員
平成 16年 11月 ~ 尼崎商工会議所 副会頭に就任
平成 21年 11月 ~ 尼崎商工会議所 会頭に就任
現在に至る

はじめに

皆様、おはようございます。

本日は、尼崎倶楽部の朝食会にお招き頂き、誠に有難うございます。

私は現在、尼崎商工会議所の会頭を務めさせて頂いておりますが、私自身は、何事も一生懸命やれば、必ずと道が開けるといふ考えのもとで物事を進めております。

尼崎商工会議所は、今年で創立 100周年を迎えることになりました。

本日の表題にありますように、「企業と人が生きづく街」を目指して、この 100周年を節目にして、色々な事を考え、やっていきたいと思っております。

もうひとつは、「ECO未来都市・尼崎 宣言。昨年の 11月に記者発表致しましたが、その中で、尼崎市と5団体で一緒になって、いろんな事をやっていければと考えており 本日はそうした思いも少しお話しさせて頂きたいと思っております。

街が活性化し、元気が出るというのは、やはり人の往来と交流が一番の原点と考えております。

尼崎は交通の便に恵まれた環境にあり これを最大限に発揮、活用する事で、何か盛り上がりを作っていきたいという考え方のもとに、商工会議所の創立 100周年として、事務局で色々な事を検討致しております。

その様な時、東日本大震災が起こり 去年まで思っていた事が少し変わってきました。阪神大震災の際にも、人生観が変わった人がおられると思いますが、物欲がなくなり 毎日毎日を大事に生きて行かなければならないと考えるようになりました。

もう一つは、私自身も団塊の世代で、いつ亡くなるかも知れませんが、やっぱり明るく楽しく、同じやるなら徹底してやらなければならないと思っております。

私どもの社員で福島の出身者がおり 彼らが他府県に行った時に、「福島ナンバー出て行け」と車に落書きされたという話を聞きました。今回の地震では、良い話もたくさんありますが、それと同時に、嫌がらせ・風評被害などの事もあり 人生、色々な人がおられる訳ですから、いろんな事があって当たり前ですが、それらを少しでも皆で回避していかなければと思います。また、「ECO未来都市・尼崎 宣言をした行政と5団体が心をひとつにして、尼崎の明るい未来に向けて、今年は新たな歩み出来るように、頑張っていきたいと思っております。

創立 100周年を迎えて

商工会議所が創立 100周年を迎える中で、私は物事には何事も 過去・現在・未来があると改めて思っています。

「過去」というものからは、我々は失敗事例や色々なものを学び、いろんな事を経験し、それを知り感謝

する。現在」というものは、今度の大地震の復興のように、同時に、「未来志向」であるべきだと私は考えております。

21世紀は時代が大きく変わるという中で、今回の自然災害により、これからの未来というものは、我々が去年まで考えていた安全・安心というものと今年考える安全・安心というものは、大きく違ってきているように思います。

例えば尼崎の場合でも、「防潮堤の高さがどの位で、いつ造られたか」を意識する。そういう事と言うと、過去のある時点では良いものであったものが、現在では陳腐化している事があります。

20世紀の100年の間に電気エネルギーが普及し、自動車ひとつにしても変化して、今はバッテリーカーの時代が到来しようとしています。私はこの21世紀というものは時代が大きく変わる時だと考えております。

ただ、この2011年までの今の時期は、20世紀から引きずっているものと捨てていくもの、継続していくべきものなどの一つ一つの価値判断をしていく時期がこの11年間続いているような気がします。

もう一つは、プラス思考で、未来の街のあり方や我々の生き方、それから安全というものを、もう一度真剣に考える時期だと思います。私自身も電気というものはあって当たり前のように思っていたのですが、東京に行くと、やっぱり電気がないという事がどんなに大変なものかという事を実感させられます。

今、東京では、百貨店の食堂のオーダーストップが夕方5時か6時で、閉店時間が早まっています。節電が良いか悪いかは別にして、「電気がなかったらどんな風になるのか」という事が身に染みて分かった訳ですから、今度はそういう中で、自然エネルギーというものをどうすべきかを考えていかなければならないとも思いました。

尼崎商工会議所の創立100周年というのは、色々な意味で、本当に意義のある時期を迎えることができたこと、私自身、ある意味幸せに感じております。そしてもうひとつは、いろんな事を考える時間を持ち、我々の街のこれからをどんな風にしたら良いのかという事を、もう一度原点に戻って考える。そういう意味でも、恵まれた創立100周年ですので、この節目を本物の生き活きたものにして行きたいと考えております。

先程も申し上げたように、多くの人に尼崎に来て頂くためには、「産業観光」一つにしても、我々はモノづくりの街として、また庶民的な気さくな街として、いろんな意味でのユニークさをもっと知ってもらわなければなりません。

そうした観点からも、「産業観光」の中に、モノづくり体験、それから、職場・職業体験というような「体験シリーズ」を組み込んでいきたいと考えております。

高校生が尼崎へ修学旅行に来たいと思った時に、一泊で来てもらえるようにする。例えばネジを作りたいとか、何か現場と一緒に働きたいとか思った時に、半日でも、2時間でも体験してもらえるようなモノづくり体験を用意する。例えば、ホテルで働きたいといった場合には、ホテルの職場やホテルマン

の職業というものが知ってもらえるよう ホテルニューアルカイクなどのホテルで体験してもらい そのような体験シリーズで、高校生の修学旅行や一般の方も含めて、尼崎に来て頂けるような事になれば良いと思っております。

受け入れる会社側も見学をして頂き、モノづくり体験をしてもらう事によって、人を気持ちよくお迎えできるように綺麗にしておこうという気持ちが起こり また、その事で日常の気持ちにも一つの張りが出ると 私はその様に思っております。『産業観光』も、色々な形で、“尼崎らしさ”を出していけたら良いのではないのでしょうか。

魅力ある街づくりと情報発信

最近の学生は就職難で大変ですが、就職にしても大企業志向から中小企業志向、あるいは活力のあるところを段々選ぶようになってきているように思います。

尼崎に若い人がどんどん来てもらえるということは、尼崎市内の商店街で物を買ってもらえることにも繋がると思います。

商工会議所は昨年、園田学園と宝塚大学と連携協定を結びました。女子学生に尼崎の市場や商店街で物を買ってもらい もう一つは、買いたいと思うようなお店にするにはどうすれば良いか。そのような事を交流を通じて考え、尼崎に親しみを持ってもらえるような事が出来ないかと考えております。

宝塚大学にしても、尼崎からたくさん学生が通学しており、彼女なり彼らが尼崎市内で物を買うためには、もう一つは買おうという気持ちになるためには、どういう風にしたら良いのか。その様な交流が新しい未来に向かって一步一步進んでいく原動力になるのではないかと考えております。

先程も申し上げましたように、この2011年以降、これがいつまで続くかは分かりませんが、20世紀のものを継続させるものと捨てていくもの、もう一つは改善して継続していくもの、そうした区分をしていく時期がまだ数年は続くのではないかと考えております。

21世紀の目標というものがまだはっきりと定まっていないという非常に曖昧な中で、東日本大震災が起こりました。色々な事をそれぞれの人たちが、それぞれの感じ方や考え方によって、これではいけないと感じられたのではないのでしょうか。その様な意味では、大きくは日本の国全体、それから地方では、兵庫県や尼崎。その様な一つ一つの単位や段階の中で、様々な考え方が出てきたのではないのでしょうか。



商工会議所の創立100周年も色々な意味で、尼崎の次のステップアップの第1歩だと考えております。60周年、80周年であっても、これは時間の途中経過であり、100周年のためにあったのではなく、一つの通過点でした。この100周年も意義あるものと同時に、新たな目標へと進む一つの通過点です。その目標と進むべき道を、皆さんと色々な事をお話しさせて頂きながら、考えていければと思っております。

商工会議所としまして、会員の方々に、会議所というものをもっと気さくで身近に感じて頂きたいと思っております。その様な中で、現在、職員が15台の自転車で会員企業や商店等を訪問させて頂いておりますが、私は会議所の会員だけに限って訪問するだけでは不十分だとして、まだ会員になっていない方々にも「会議所の役割」を知って頂く事が必要だと考えております。

これから夏が近づき、益々暑くなる中で、汗をかきながら会員ではない方の企業や商店等を訪問し、職員が汗をかいているところを皆さんに見てもらうことが大切です。尼崎商工会議所のブランドメッセージである「企業と人が息づく街は美しい」とあるように、汗をかいて働いている姿が一番美しいのであって、その様な事が会話への第一ステップだと思っております。また、もう一つはアンケートを取ることで、一軒一軒が何を思い、何をしようとし、何で困っているのかを知ることが出来ると思っております。

尼崎の人口は46万人ですが、100万人をまとめるより先46万人をまとめる方が簡単で、その様な意味では100万人都市より先有利であり、商工会議所の創立100周年と同時に、去年1月に発表した「ECO未来都市・尼崎」宣言も一つのきっかけと捉え、この二つを「両輪」にして、色々な形で尼崎を活性化させていきたいと思っております。

これからの尼崎というものを考える時に、今回の地震のような大災害の事を思うと非常に難しい問題だと思います。安全・安心というのは、色々な意味で、口で言うのは簡単なことですが、やはり限界というものがあります。その限界をどこに置くのかということが一番のポイントで、市民の一人一人や、我々各企業の人間の理解度が大事です。

商工会議所職員が自転車部隊で事業所を回ると同時に、自分達が何をしようとしているのか、皆さんに何をしてもらいたいのかという情報の共有化が大切です。安心・安全もそうですが、これには自分達が参加するのですから、その役割もある訳です。誰かが決めて、それに向かって行くというだけではなく、市民も企業も色々な意味で役割があると思っております。21世紀のこれからの時代には、社会奉仕や社会貢献というような役割が商店や企業にも求められるのではないのでしょうか。

東北・仙台の方に我が社のお客さんがいらっしゃいますので、よく出張で行かせて頂きます。宴席で大阪流に冗談を言いますと、皆さん「わぁー」と笑うんです。笑った後に、「さすが関西の人は口がうまい」と言われます。私は別に口がうまくて、笑かしている訳ではないのですが、「ここは笑わず所やな」と大阪の突っ込みを入れながら終わった後、「さすが口がうまい」と言われます。東北の人は、関西の人が来

たら儲けることばかりで、商売しかやらない」という様な警戒心を持っておられるような感じがします。

関西人にはどうしてもその様なイメージがあるので、尼崎の場合、会社も大・中・小の規模や業績のこ
となど、色々な事がありますが、自分達の出来る最大限、あるいは最小、最低限でも良いので、何か社
会の役に立つような事をしていかなければならないと私は思っております。

その様な意味での社会への参画の一つとして、我々が一つの役割を務めながら、また、志を高く、
大きな目標を持ち、尼崎市と一緒にあってより良いまちづくりをやって行く事で、21世紀という新しい時
代が拓けていくのではないのでしょうか。

国際競争力と国際経済交流

20世紀は、とにかく頑張って、「明日より先今日をどう生きる」というような流れがありました。私自身、
この21世紀は中小製造業であっても、街の商店であっても国際競争というものは避けて通れないと思
っております。

尼崎商店連盟の方々にもよくお話しさせて頂いておりますが、国際競争は起こって当然の事であっ
て、中国なりアジアの製品が安くて良ければ、皆さんの売の商品を全部日本製からアジア製に変えざ
るを得ない状況も起こり得るのです。

国際競争というものは、商店にも海外製品との競争といったものをもたらす、事業主のポリシーの選択
というものが重要になってくると思います。

またそれと同時に、世界規格、世界標準というものがあります。地球は一つという中で、色々な意味で
標準化がされてきました。

NTTドコモの携帯端末の失敗が典型的なもので、世界の標準化に失敗した結果、日本の携帯電話
の技術は素晴らしいのに、世界に普及しなかった。その様な事例は数多くあり、国際的な戦略という
ものが、国の単位で進んでいます。

皆さんもご承知のように、私達が子供の時代は車といえばアメリカ車でした。それがいつの間にかアメ
リカの自動車メーカーは衰退し、品質の良い日本やドイツのメーカーに取って代わってきました。

これからの50年間位の間には、もっと早いスピードで次から次へと変わっていくものだと思います。

アジアのコピー製品にしても、本物に益々近づいていき、今度は我々より先品質の良いものが現れる
かもしれません。私は街の活性化を考える上で、国際経済交流というものの中で、諸外国を敵として見
るか、情報を得る友好相手として見るか、その様な事も大切だと思っております。

ビジネスだけではなく、やはり人と交流することが、結果的に自分の発見、町の再発見にも繋がるの
ではないでしょうか。“人との交流”というものがその様な示唆を得るための手段なのだと思
うようになります。また、先程申し上げましたように東北の人は、関西の人が来たら儲けることばかりで、商
売しかやらない」という様な、利益を得るためだけに交流しているのではないという一つの気持ちも現
れて来ます。

尼崎の庶民性というものは「フランクさ」という意味で、外国人にも本当に喜ばれます。正直申し上げて、東京に行って感じる“気取っている”“格好をつけている”といったものは関西流ではないのです。

私は、尼崎は大阪の庶民性というものを代表するひとつのスタイルを持っていると思っております。大阪の街中の庶民性と尼崎の庶民性というものは、私は全然違うと思っております。

最近よく言われていますのが、大阪の毒々しさについては、やはり「吉本が悪い」と言う人も多くおられます。

尼崎の庶民性というものの中には、私は「愛嬌」があると思うのです。尼崎のこのようなフランクさというものを有効に使って、色々な所から多くの人に来て頂く。また、それと同時に、人が来て頂く事によって、折角人が来て頂けるのなら街を綺麗にしておこうという気持ちが市民に芽生え、街中が綺麗になっていけばいいなと思います。

昨日の読売新聞の夕刊を見ましたら、市民クリーン運動を2万人が総出でやったという記事が出ていました。この様に“人を迎えるという気持ち”というものを一人一人が持ち、色々な会合で呼びかけいきます。商工会議所としては、ECO未来都市宣言を行った五団体や行政と連動して、同じように一緒にやっていきたいと考えております。その様な事が結果として話題を呼び、その話題性によって、また人が来るようになるという好循環が生まれると考えております。

東大阪の中小企業が集まって、人工衛星を打ち上げました。私どもの会社も一部に参画し、一時期お手伝いさせて頂いておりました。東大阪のクリエイションコアに人工衛星の組合の事務所があり、高校生から電話がかかってくるのですが、何の電話かと思って聞いておりましたと、修学旅行で人工衛星を打ち上げられるような街を見学したいとの申し出の電話でした。今の修学旅行というのは全員が班に別れて、自分の興味のあるところに見学に行くようで、「このような電話が頻りに掛かって来るんですか？」と尋ねたら、「お蔭様でいろんな所から街を見たいという電話が掛かって来ます」という答えが返ってきました。

「尼崎でどのような話題性を作っていくのか？」というのは、私自身にとっても大きな課題です。私は「ECO未来都市宣言」というのは、これからの尼崎の大きな話題性を作っていく原点になるものと思っております。

これからは各団体が単体でやるのではなく、共同宣言の団体が協力し、市も協力し、市長も参加し、みんなでチームを組んで連携してやっていくところに大きな意義があり、その様な事が尼崎の存在感を



高めていくと思います。

その為にも、私自身、同じやるなら、明るく楽しく、前を向いて皆さんと一緒にやっていきたいと思っております。

存在感の確立を目指して

商工会議所が創立100周年を迎える中で、何を、どの様にしていくのですか など私自身もよく聞かれます。皆さん方も様々な期待を持って見ておられる様で、そのプレッシャーに負けないように頑張っていきたいと思っております。

去年1年間、商工会議所の職員が自分で汗を流し、月に大体200程の事業所を廻らしていただきました。その中で、自分たちのやるべき事、上手下手はありますが、どの様に接触の仕方をしていったら良いのかが分かってきたのではないのでしょうか。

その彼らが創立100周年の記念事業についても様々な原案を作ってくれておりますので、正直任せていきたいと考えております。

事業所の皆さんから、「会議所というのは、役所的なとこだ」とか、「情報は発信するだけで、聞く方には全然廻らない」とか思われていたかも知れませんが、事業所の巡回を通じて、一つの交流も始まり少しは前進したのではないかと考えております。事務局がたたき台を作り、それを色々な会合で練ってもらいながら作り上げていき、創立100周年をひとつの通過点として、次の目標に向けて歩み出す一歩にしていきたいと思っておりますので、皆様には様々な面でご指導、ご支援をお願いしたいと思っております。

尼崎の存在感ということに関して、兵庫県、関西、それとも日本における存在感なのか、またもっと大きく国際競争の中の存在感としていくのか、その様な事をディスカッションしていく必要があると思います。

最初から大きいものを求めるのではなく、先ずは小さく、一つ一つの成功事例を積み重ねながら、何かを活動し、一緒に歩んでいるのだという実感を皆さん共々に味わって頂けるように、我々も頑張っていきたいと思っております。

中小企業の社長が暗い顔をして、「この会社はひょっとして潰れるのではないか」と思った瞬間に、社員はしっかり動いてくれません。どの様な事があっても明るく楽しく、皆でやるという気持ちや高揚感を作れるように、私自身どこまで出来るか分かりませんが、とにかく元気よく、リーダーシップを取りながら、創立100年を迎えたこれからの商工会議所の役割というものをしっかりと考えていきたいと思っております。

今までの100年間の商工会議所とこれから先の100年の商工会議所が果たす役割は違って来ると思っています。私自身は「新しい商工会議所の形」というものや「地域総合経済団体」としての役割というものは何かという結論は簡単に出せるものではないと思っております。皆さんと色々な議論を重ねていきたい。また、その様な事がそれぞれの成長に繋がっていき、その結果として、尼崎という街が元気になれば良いと思っております。

この度の大震災で分かりましたが、電気を始めとするエネルギー問題を考えた時に、これからは、エコ

というものがキーワードになると思います。その様な意味では、「ECO未来都市宣言」は非常に話題性があると思います。その話題性の中にどんなユニークさを出していくかが重要になります。

国がエコ先進都市として、横浜、豊田、京阪奈、北九州の4ヶ所を指定しています。これは官ですが、私は民として、「ECO未来都市宣言」を通じて、これからの尼崎がエコ都市としての存在感やユニークさを示せるような何かを表現していきたいと思っております。また、それも一過性ではなく、共同宣言の理念を継続していつまでも持ち続けていく中で、一つ一つ地道に、“エコな未来”というものを表現出来る事を実現していくべきではないかと思っております。

私自身、商工会議所のこれからの100年と果たすべき役割といったものを考えながら、今後も皆さんと一緒に、尼崎のために頑張らせて頂きたいと思っております。

長々とお話しさせて頂きましたが、私は元々こんな高い所から皆さんにお話しするような柄でもないですし、正直申し上げまして、学生時代はラグビーしか知らない男でした。会社も社員と一丸となって一生懸命やって来て何とか成長出来たお陰で、この様な所にも呼んで頂けたのだと思っております。社員に感謝です。

これからの尼崎の話題性とか存在感といったものを皆さんと共に作っていききたいと思っておりますので、今後とも何卒よろしくお願い致します。

ご清聴、どうも有難うございました。

豊かな地域づくりのお手伝い。
<あましん>

**地域の文化・教育・環境など、
元気な地域づくりに貢献します。**

尼崎21世紀の森づくりを支援します。
※あましんは兵庫県と協定し「企業の苗木の里親第1号」としてスタートしました。



ちいさなふれあい・ゆめ



尼崎信用金庫
AMASHIN
<http://www.amashin.co.jp>



20000722(03)
JSD050012000